

神宮と伊勢のまちを伝える

O I S E S A N N E W S

お伊勢さんニュース

伊勢文化舎／〒516-0008 三重県伊勢市船江 2-22-25 TEL 0596-23-5166 FAX 0596-23-5241 E-mail otayori@isebito.com

第6号

6

●企画・発行 伊勢文化舎
●発行日 令和7年12月1日
●発行部数 55,000部
●協力 神宮司庁
神社本庁
近畿日本鉄道(株)
伊勢御遷宮委員会
伊勢のお木曳行事調査団
伊勢志摩観光コンベンション機構

第六十二回 遷宮諸祭 御船代祭が 斎行される

「御船代」が麗しく造れるように
平安時代の衣裳を着けた童男、童女が
祭りの主役を務め、奉仕する。

目次

- 2面 晴々しく御船代祭
3面 お木曳の始まりを告げる
御木曳初式、本造始祭
御遷宮のカタチ「上」
4面 伊勢にお木曳の夏が来る！
お木曳を楽しむ10のポイント
5面 陸曳・川曳のコースと見どころ
6面 お木曳行事入門講座 其の二
外宮への奉曳は宮川から陸曳で
7面 「お伊勢さん」ご遷宮「事典」
櫻井治男氏インタビュー
お伊勢さんのご遷宮展
8面 伊勢志摩のまつり暦・ご案内

月読宮以下九別宮の御船代祭。半尻の装束を着た物忌が奉仕した(内宮・宮山祭場) 撮影 鈴木和宏



今年、最後を締める遷宮諸祭の一つ、御船代祭が、真夏日の中、九月十七日に内宮、十九日に外宮で行われました。

「御船代」とはご神体を納める御樋代をさらに納める御器のことを言います。御用材を伐採するに際して御杣山に坐す大神に御船代が麗しく造られるよう祈りを込め、忌鎌、忌鋏、忌斧を捧げ祀る祭りです。

参道での参拝者の衆目を引いたのは、神職や小工の先頭を歩き、平安時代の子ども衣裳、半尻や相の装束をまとい、浅沓を履いた物忌の童男、童女です。物忌とは神様に仕える清らかな存在を指し、古くから祭りの主役として遷宮など重要な祭りに奉仕してきました。今回も神宮司庁に奉職する神職の子女で小学校低学年から高学年まで六名が、無事、役目を務めました。

お子良こがひたすら沓を引ききてゆく
奇のやさしさ。玉砂利の道

三重県出身で歌人の岡野弘彦氏は、前回の第六十二回遷宮の御船代祭に来賓として参列した折、物忌の子どもたちの奉仕する姿に感動して、このような歌を詠まれました。

「お木曳行事」は町衆の誇り

年が明けると、いよいよ、お木曳行事が始まります。お白石持行事と並び、神領民が遷宮に奉仕できる数少ない行事です。奉仕である一方、町衆の誇りをかけて競い合い、その活力を原動力として、町ごとの地域性や文化性が育まれてきました。

近年、担い手不足で継承が危ぶまれる中、各団は兄弟団や友好団をつくり、あるいは二団が合同で一台の奉曳車やソリを曳いて奉曳の維持を図ってきました。こうした、扶助の文化もお木曳から生まれました。

さて、今回ですが、川曳が二十団、陸曳は五十団が参加を予定しています。五月九日から土日ごとに行われます。ご期待下さい。

発行人 中村 賢一

澄み渡る山の
空気に包まれ
晴々しく

御船代祭

御船代とは、御神体を納める御桶代をさらに納める御器のこと。その御用材を伐採する御遷宮五つめの祭りが御船代祭だ。内宮、外宮の山の麓の祭場で奉仕した物忌の童男・童女たちは、ただひたむきにその役目を務めた。

緑の杜に包まれ、御杣山の木の本に坐す神を祀る御船代祭。正宮、第一別宮、諸別宮と、それぞれに丁寧な祈りが繰り返される。内宮では月読宮など九つの別宮が同時進行

で斎行されるという壮観な光景。風日祈宮橋そばの宮山祭場は、祭員の動き一つ一つに緊張が走り、厳かで清々しい空気に満たされた（1面）。

御用材伐採にあたり
御杣山の木の本の
神に祈る

御船代祭は天皇陛下の御治定を賜って日時が定められる、重要な遷宮諸祭の一つ。九月十七日の秋晴れの朝、内宮の祭典では、まず久邇朝尊大宮司ら約八十名の祭員が正宮に拝礼。次いで、忌火屋殿前でお供え物と奉仕員を祓い清め、宮山祭場へと移る。白い斎服に身を包んだ神職のほか、造営庁の小工は青い素襖に白い明衣を掛け、その列の中に一人、物忌と呼ばれる子どもの姿がある。

御船代祭では内宮は童男、外宮は童女がその役割を担い、前日から潔斎のためにお籠もりし、清らかで無垢な心で神に仕える。慣れない浅沓でもしっかりとした足取りで、凛々しく前を見つめる面持ちに、見ているこちらも気持ちりが張り詰める。

普段はひっそりとした島路川沿いの空間に五色の幣が立てられ、生調である白鷄や鶏卵、伊勢海老などの神饌が供えられ、祝詞を奏上。続いて物忌が忌鉞で忌物を埋める所作により祈りを捧げ、忌鎌で草木を刈り初める儀、最後に小工も加わって忌斧で木を伐る所作を行い、一同が拝礼して神事は終わる。



荒祭宮の御船代祭。五色の幣が囲う祭場で物忌の林宜孝さんが忌斧を捧げ、伐採作業の安全を祈る（内宮）



祭典の一番初めに正宮の物忌をつとめた西本敬俊さん（内宮）

これに続いて第一別宮の荒祭宮、そして九別宮の祭儀が行われ、その当日、物忌の木を伐る所作に合わせ、木曾の御杣山において、実際に御船代に使われる御用材のヒノキを伐採する「伐木ノ儀」が行われた。

外宮でも同様に
物忌が大役を果たす

翌々日の十九日、不安定な雲行きに万全を期し、外宮土宮横の祭場にはテントが設置されたが、祭典中は青空に恵まれる好天となり、正宮、多賀宮、そして土宮含む三別宮の神事を滞りなく斎行。内宮同様、物忌の童女たちが主役



風日祈宮橋を渡り祭場へ向かう（内宮）／物忌の父とともに奉仕する童女の吉田乙葉さん（外宮）



伏籠につがいで収められた白鷄。後ろは物忌の工藤瑞生さん（外宮）

取材・文 中村元美／撮影 鈴木和宏、本紙

木曾谷、
裏木曾で 御船代祭御杣山伐木ノ儀

御船代祭内宮の日に長野県上松町木曾谷国有林で、外宮の祭儀に合わせて岐阜県中津川市の裏木曾国有林で御船代の御用材が伐採された。



約3時間かけて奉伐（上松町）神宮司庁提供

上松町では十七日、杣夫に選ばれた神宮営林部の職員と地元林業関係者の十五人で、御船代となる木の伐採に臨んだ。三方向から斧を入れる「三ツ緒伐り」の技法で、樹齢およそ三百年の大木が伐り倒され、中津川市でも十九日、杣夫が代わる代わるに斧を振り、無事伐採。六月の御杣始祭に続き、選ばれたヒノキが、それぞれに祈りを込めて調えられている。

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神と仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころとなるようにとの願いから創建され、140年余の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
<https://www.tokyodaijingu.or.jp/>

JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分



技師と小工が御用材に墨打ちや手斧などで木取りの所作を行う。これらは実際の木工仕事を象徴する動き

木造始祭

令和八年四月頃予定

御殿造営のため祈りを捧げる――

遷宮の起工式にあたる木造始祭。御木に忌斧（いみのき）を打ち入れ、新しい御殿が清く麗しく造営されることを祈る祭りだ。神宮では御用材の加工を「木造り」と呼ぶ。御用材の伐採を終えて、実際に木を御柱に調える段階に入る節目にあたり、別名「手斧始」「事始神事」とも呼ばれている。当日は、早朝から内宮中重（なかのえ）での八度拜の後、参道脇で荒

祭宮の遙拝、五丈殿で饗膳（きょうぜん）の儀が行われ、屋船大神（やふねのおかみ）に祈りが捧げられる。その後、五丈殿の前庭において神職（しんしやく）や物忌（ものい）たちが見守るなかで、御木曳初式（ぎぎひきぞうしき）で運び込まれた御用材に宮大工である小工（こどう）と技師（きし）が鋸（のこ）、墨壺（すみう）、手斧（てお）で、実際の手取り作業を模した所作を行う。同日正午には外宮で、翌日からは各別宮でも順次同じ祭典が行われる。

この祭りで以降、造営作業が本格化する。

文 中川絵美子／写真 伊勢文化舎



神域内へと運ばれた役木は町民らの手によって別宮の社殿前まで運ばれる（内宮・風日祈宮）／五十鈴川を遡って内宮へと御用材を運ぶ川曳

内宮の御用材三本と各別宮の御用材一本ずつは川曳（かわひき）で、外宮の御正殿の御用材三本と各別宮の御用材一本ずつは陸曳（りくひき）で、それぞれにゆかりの深い奉曳団（ほうひきだん）によって奉曳（ほうひき）される。



町民は法被を着用し、色鮮やかな奉曳（外宮）



両正殿の御用材は五丈殿に、別宮の御用材はそれぞれの新御敷地に安置されるため、荒祭宮などの別宮では御用材に横木を渡して担いで運び込み、倭姫宮まで陸上（りくじょう）でソリを曳くなど独特な光景も見られる。

「お木曳」の始まりを告げる

本年五月より、山口祭にはじまった第六十三回神宮式年遷宮。令和八年も社殿造営のための御木に関する行事や祭典が控えている。

御木曳初式

令和八年四月頃予定

いよいよ「令和のお木曳」始まる――

御遷宮のカタチ 1

神宮広報室より御遷宮の「いま」を伝える連載が今号よりはじまります。御神木だけではない、御遷宮の伝統文化をクローズアップしていきます。第一回は御装束神宝の貴重な素材についてです。

御装束神宝の調製について

神宮司庁 広報室 柴田竜太郎

昨年、天皇陛下より第六十三回神宮式年遷宮のご準備について御聴許（ごおきんきょ）を賜り、令和十五年のご遷宮に向けて準備が本格化しています。



豊受大神宮御料の御高機

遷宮では正宮を始め別宮の御殿を新しくしますが、神様の身のまわりの品々である「御装束神宝」も新しく調えます。この御装束神宝の調製事務を担当する神宝装束部ではこれらの品々の素材調達が佳境を迎えています。

御装束神宝とは、神様の衣装や御殿を飾り立てる品、また新殿に神様がお遷りになる時に使用する品などの「御装束」と、武器・文具・馬具・楽器・紡績具といった威儀具（いぎぐ）の「神宝」からなります。その数は七・一四種、宝の調製も我が国の伝統文化の保持育成に大きく寄与しています。一つの時代にも祭儀や御殿の造営だけでなく、御装束神宝の調製にも、時代を超えて受け継がれてきた人たちの高度な技術と神々への深い敬意が式年遷宮と共に伝えられています。



月読宮御料の鶴斑毛御彫馬



伊勢名物

お福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファックス 0120-081-381
<https://www.akafuku.co.jp>

伊勢にお木曳の夏が来る！



外宮北御門直前の交差点をエンヤ曳で疾走する（陸曳）

「お伊勢さんのご遷宮」と聞けば、伊勢っ子の心にまず浮かぶのがお木曳。木遣りに合わせてエンヤ!と綱を曳く。陸曳も川曳も、いろいろな見どころや物語が生まれている。知ればもっと、もっと、お木曳を楽しめる。

御用材は海から川を遡り

その昔、御用材は木曾などの山々から伐り出され、海をわたり川を遡って運ばれてきた。そのため、今でも、お木曳は陸曳も川曳も川からスタートする。

外宮領の団は宮川の関場から、お木曳車に御用材を積み、内宮領の町々は、御用材を載せたソリを曳いて五十鈴川を遡る「川曳」で内宮へ。陸曳も川曳も、それぞれに、歴史を積み重ね、楽しみ方や作法ができています。

お木曳を楽しむ10のポイント

曳いてうれし
見て楽しい

1 木遣り

お木を曳いても見るだけでも、お木曳は楽しい。だが、ここというポイントを知れば、見る目も一層通になる。お木曳の10のポイントを押さえて、来夏を待つべし。

2 練り

曳き綱を左右に広げたり、中央でぶつかり合ったり、時には木遣り子を積み上げるなど、練りは曳き子のお楽しみみの時間。川曳では水を跳ね上げ涼しげ。陸曳では、道幅が広くなり、練りを派手に楽しむ団が増えたという。

3 お木曳車とソリ

お木曳車（奉曳車）のつくりやワン鳴り、絵符や幟などの飾りつけと、お木曳車は見どころも満載。ソリも幟を立てて華やかに飾る。各団見比べて楽しみたい。

4 梃子方と荷締め

車やソリの後ろで、梃子綱を肩に掛ける梃子方は、ブレーキとかじ取りを担う。御用材の荷締めも、多くは梃子方の仕事だ。荷締めの美しさや梃子方の動きなど、御用材の後ろも要チェックだ。

5 色とりどりの法被

法被には各団の歴史と美意識が表れている。背中や袖の文字や柄にご注目。役割によって色や長さを変える団もある。どここの法被がかっこいいかな。

6 踊りや演奏の賑い

先導車での鳴物演奏、休憩所での伊勢音頭の踊り披露や若者たちのパフォーマンスも見もの。じっくり見たい。

7 エンヤ曳

「エンヤ！エンヤ！」と団員みな声が合わせ力強く走りながら曳くエンヤ曳。陸曳では外宮北御門前の曲がり角、川曳では宇治橋袂から陸への曳き込みで行われることが多い。

8 難所

陸曳では、宮川から上げた御用材の水を切るドンデン場や最後に御用材を入れる外宮の山田工作場内にある貯水池。川曳では、二つの堰や御用材を曳き上げる宇治橋下流などは多くの人が見守る難所。見物可能な場所では「エンヤ！」と声をかけて応援を。

9 浜参宮と上せ車・帰り車

参加者が前もって二見興玉神社で祓いを受ける「浜参宮」。また、お木曳車を出発点まで運ぶ「上せ車」や奉曳後の「帰り車」には特別な飾りや趣向を伴う団が多い。本奉曳以外の動きも見逃せない。

10 団ごとの歴史や特色

兄弟団や友好団の助け合いや、まちの歴史による特別な御用材の奉曳など、各団の物語もぜひ知りたい大事なポイント。他にも、お木曳にはたくさん物語が次々生まれている。文 堀口裕世／写真 伊勢文化舎



宮川堤のドンデン場でエンヤ！／御用材の上で唄声を響かせる本木遣り（共に陸曳）



大勢の見学人に見守られ、宇治橋横からお木を曳き上げる（川曳）



出発地点への上せ車は華やかに／二見興玉神社にて浜参宮のお祓い

豆腐庵山中
伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596・23・5558 木曜定休

お多福とともに
岩戸屋
今も昔も内宮前

名物 岩戸餅

伊勢・内宮前おはらい町
TEL 0596・23・3188
FAX 0596・28・1322



陸曳・川曳のコースと見どころ

伊勢のまちに「エンヤ」の音が響く夏色とりどりの法被や幟が風に揺れて陸曳も川曳も見どころが満載！

陸曳の見どころ

川曳の見どころ



第六十三回神宮式年遷宮
令和八年 お木曳行事（第一次）奉曳日程 予定

	奉曳日	奉曳学区等	奉曳順
陸曳	5月 9日(土)	中島	出雲町、中島、徳川山、辻久留町
	5月 10日(日)	中島	小川町、宮川町、西口町、京町、二俣町
	5月 16日(土)	早修	常磐仲町、常磐第一、常磐西世古、宮町、浦口町
	5月 17日(日)	有絹・宮沼	宮沼連合、河崎南側・河崎旭通合同、河崎六ヶ町、神久社、船江
	5月 23日(土)	浜郷・小俣	一色町、通町、黒瀬町、小俣町
	5月 24日(日)	神社・大湊	小木町、馬瀬町、神社港、大湊
	5月 30日(土)	御園	新開、王中島、下長屋、上長屋、高向
	5月 31日(日)	豊浜・明倫・北浜	磯町※(内宮へ陸曳)、岩渚町、岡本町、吹上町、尾上町、北浜連合
	6月 6日(土)	城田・二見	川端町、荘、西、今一色
	6月 7日(日)	宮山・修道・厚生	前山町、豊栄会、倭町、曾祢町、宮後
川曳	6月 13日(土)	厚生	一志町、八日市場町、本町、大世古町、一之木町
	7月 25日(土)	二見	松下、江、茶屋、三津、山田原・溝口合同、光の街
	7月 26日(日)	進修・有絹	宇治、二軒茶屋
	8月 1日(土)	四郷	鹿海町・一字田町合同、楠部町、中村町、朝熊町
	8月 2日(日)	修道・大湊	大湊、桜木町、桜が丘、中之町、五十鈴ヶ丘、古市

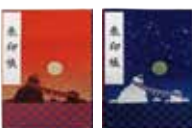
資料提供 伊勢御遷宮委員会 (TEL 0596・25・5215)



二見興玉神社

〒519-0602 三重県伊勢市二見町江 575
TEL 0596-43-2020

御朱印帳



お伊勢参りは
まず二見浦で浜参宮
心身清めて
お伊勢さんへ



第63回神宮式年遷宮記念 お伊勢さんのご遷宮展

株まつり (御杣始祭)

令和7年 12月5日(金) ▶▶ 14日(日)
おかげ横丁「大黒ホール」10:00~17:00 入場無料

おかげ横丁
伊勢肉店前

令和八年第一次お木曳行事 入門講座 其の三

外宮への奉曳は
宮川から陸曳で

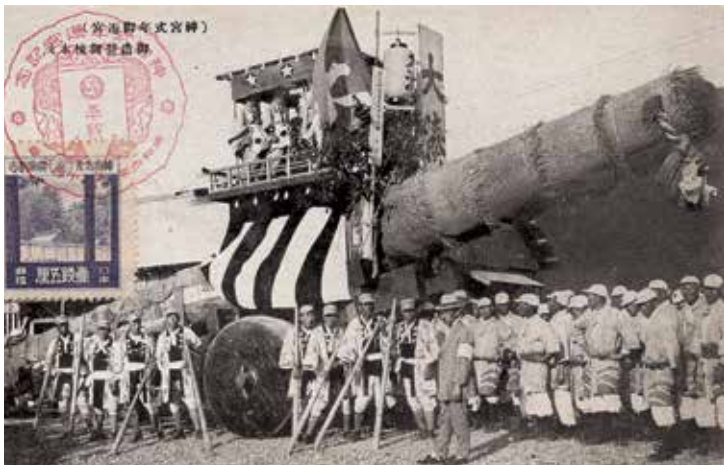
文 増田研一郎（伊勢市情報戦略局文化政策課長）

いよいよ来年と再来年、伊勢の町をお木曳車が練り歩く。その特徴、コースと見どころは――。

ワン鳴りに木遣り唄
各団自慢の個性

伊勢の住民が参加し、御用材を神宮に曳き入れるお木曳行事。外宮へは貯木池〔①〕のあった宮川から北御門まで陸路を曳くことから陸曳と呼ばれる。陸曳には大きく二つの特徴がある。

一つは御用材を運搬するお木曳車である。大八車を大きく頑丈にしたような造りで、陸曳を行う各奉曳団が所有



上▽「御造営御棟木曳」大湊の絵符が掛かる／右下▽「伊勢神宮御造営材御木揚之光景」／左下▽「伊勢神宮御造営材御木宮川貯木場水揚」…絵葉書三枚提供 伊勢市

し、奉曳車とも呼ばれる。大きさは奉曳団の規模によりさまざまで、屋形の有無や裝飾などに各団の個性が見られる。お木曳車が動く際に響く音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べてほ

しい。

陸曳のもう一つの特徴は木遣り唄である。お木曳車の上で唄う本木遣り、路上で唄う水揚げ木遣り（道中木遣り）がよく聞かれるが、他にも宮川での水切り木遣り、御用材をお木曳車に縛る際の荷締め木遣り、北御門への曳き込みの木遣り（ドントセー）、余興的な風情のくずしや口説き、道唄など多種多様である。お木曳行事では、木遣り子の個性あふれる木遣り唄にも、ぜひ耳を傾けたい。

宮川ドンデン場から
かつての参宮街道を

次に、陸曳のコースと見どころを紹介しよう。出発地は度会橋上手の宮川となる。まず、御用材をソリに載せ、川中を引き回してドンデン場に向かう。ここでのドンデン返し〔②〕はお木曳ならではの所作で、出発地での見せ場となっている。

その後、御用材は出発地点に並ぶお木曳車に荷締めされる。かつての狭い街道筋に各奉曳団の幟や飾りを付けた車がひしめき合い、壮観な眺めとなる。

外宮へは県道伊勢南島線を進む。筋向橋〔③〕はコースのほぼ中間地点で、ここで休憩し木遣りや踊りなどを披露する団が多い。

さらに県道を進み、最後の見せ場となるのが外宮北御門前である。エンヤ曳〔④〕で勢いよく交差点の角を曲がる団やまっすぐに曳く団、静かに曳き込む団など奉曳の仕方にもそれぞれの団の個性が見られる。

来年、再来年と二カ年に渡り催されるお木曳行事。伊勢ならではの二十年ごとに巡る行事に注目したい。

（ますだ けんいちろう）…三重県伊勢市生まれ。市役所入庁以来、主にまちづくりや文化政策に携わる。お木曳では常磐西世古翠紅社で祖父から引き継がれた本木遣りの木遣り子を務め、後進の指導も担っている。

お木曳事典



①貯木池「ちよぼくち」（旧跡）
木曾から伊勢湾を経て運ばれ、海沿いの大湊で外宮用に仕分けられた御用材が貯木された池で「下川」と称した。度会橋の下手にあった

が昭和五〇年（一九七五）頃埋め立てられ、現在は「神宮御用材貯木池跡」の碑が立つ。

②ドンデン返し
「どんでんがえし」
宮川右岸の堤防上に設けたドンデン場で行う。ソリに載せた御用材を陸側と川側にのぼした前後の綱で揺さぶる所作は、貯木池から曳き上げた御用材の水切りの名残である。数回繰り返し返す

③筋向橋「すじかいばし」
陸曳の間地点で、休憩ポイント。かつて、ここを流れる清川に反り橋が架かっていたため、エンヤ曳で勢いをつけて乗り越えていた。大正四年（一九一五）に



④エンヤ曳「えんやびき」
お木曳車に勢いをつけて走りながら曳くこと。かつては反り橋を越えるための曳き方で、北御門では火除橋で行われた。今は橋を渡らず御用材を納めるためその必要はなくなったが、奉曳の締めくくりとして行われている。

平橋となり、清川は昭和四十五年（一九七〇）に暗渠化された。



奉曳車前で勇ましく木遣りを披露
8月31日のお初穂奉納稲刈り行事

伊勢のお木曳行事
調査団レポート ④

初穂曳
10・10・15 陸曳
10・16 川曳

次世代にお木曳、お白石持行事を伝えようとはじまった初穂曳。今年で五十四回目を迎えた。〈伊勢神宮奉仕会主催〉

神嘗祭を祝い、お初穂を神宮へ奉納する初穂曳は、田植えから始まる。四月に手植えした苗が育ち、八月下旬、伊勢の子どもたちが中心となって稲刈りが行われた。奉仕会青年部やJA伊勢のメンバーに鎌の使い方を教わりながら、コシヒカリを収穫。今年は水不足が懸念されたが、たわわに稔り、稲の生命力を感じる年だったという。

迎えた初穂曳、外宮領陸曳の日。出発前にみんなの士気を高めたのは、子どもたちの木遣り唄。奉曳文化を絶やさぬよう、地元の小学生を含む約一六〇〇人が綱を曳いて参加した。翌日は五十鈴川を川船が遡る内宮領川曳が行われた。

私の旅行スタイル、ふるさと納税。

鳥羽市ふるさと納税

検索

鳥羽に旅行するなら「宿泊観光周遊券」が絶対お得！
寄附金額の3割分の宿泊観光周遊券をお贈りします。

鳥羽市観光協会

伊勢鳥羽
みちくさきっぷ

1DAY

2DAYS

ワイド



フリー乗降区間や発売場所は
HPをご覧ください！



三重交通

〒514-8635 津市中央1番1号 TEL.059-229-5533
URL. <https://www.sanco.co.jp/>



『伊勢のお木曳』『伊勢のお白石持』の事典ページ

来年、神宮式年遷宮について分かり易い解説をめざした本が出版される。その名は『お伊勢さん「ご遷宮」事典』。神宮職員、大学の研究者・学生、お木曳・お白石持を詳しく知るまちの人々など、幅広い人たちが執筆したという。編集委員の代表である皇學館大学の櫻井治男名誉教授にお話を聞いた。

—— 前回の第六十二回神宮式年遷宮（平成二十五年）のときに、「皇學館大学お白石持行事調査団」を結成し、大学生、文化舎スタッフを中心に高校生などもメンバーとして、奉獻について調査しました。その活動の成果は、『エンヤ〜』というタイトルの報告書で発信したのですが、そのときから、メンバーの多くがお木曳やお白石持についての継承、記憶が薄れていくという心配を持っていたのです。そこで、第六十三回の御遷宮準備が始まるのを契機に、たくさんの方に御遷宮を

親しく知ってもらえる本があるといいねという話になり、出版を決意しました。そして、言葉を解説した「辞典」ではなく、事柄について説明する「事典」として刊行しようということになりました。今まで注目されなかった事柄にも光を当て、先人たちの積み上げたものを大事に拾い上げた中で、現代の事典としてつくりました。

—— 筆者はどのような方々ですか。神宮司庁の現職員や元職員の方々、皇學館大学と國學院大学の先生方や大学院生、学部生、地元伊勢の歴史・文化の研究者など約五十人、幅広い方々に書いていただいています。これによって、遷宮のさまざまな事柄について、広い視点から記述していただくことができると思います。説明内容の根拠を探り、事実を慎重に積み上げることが大事にしました。

—— 地元伊勢の方々はもちろん、伊勢を訪れるすべての人々、さらに海外の人たちにも、広く利用していただきたいです。御遷宮の前後は、非常に大勢の人が伊勢に来られます。そんな方たちに頼りにしてもらえる情報源でありたいと思います。また、お木曳

『お伊勢さん「ご遷宮」事典』の概要
発行日 令和8年中に予定 [次号でお知らせ]
編集 『お伊勢さん「ご遷宮」事典』編集部会
発行者 (有)伊勢文化舎
定価 2000 円前後予定
サイズ A5 判 250 頁前後 無線綴じ製本

主な内容	
①総論・神宮遷宮編	②お木曳・お白石持編
③伊勢のマチ編	④資料編

遷宮に関係する事象や言葉の解説についても、古い由緒を持つと思われるが実はまだ新しいというような場合には、いつから始まったかを示すなど、認識を深めてもらえるよう配慮しています。

—— 歴史と現代性が融合する本として、さまざまなニーズに対応できると思いますし、多くの人に興味を持ってもらい、遷宮が盛り上がる要素の一環として、この本が役立つと良いと思っています。

まとめ 堀口裕世

ご案内

第63回神宮式年遷宮記念 お伊勢さんのご遷宮展

テーマ「御用材は木曾から伊勢へ」

期間／令和七年十二月五日(金)～十四日(日)
十時～十六時半

会場／おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

主催／株式会社伊勢福 企画協力／伊勢文化舎
問合せ／おかげ横丁総合案内所 ☎0596・23・8838

ご遷宮は二十年に一度、神殿ならびに神宝・装束などを新しく作り替える制度です。同じものを作り替えることにより古代から日本人の記憶やこころ（精神）を今につないできました。

今年(令和七年)から、ご遷宮は同十五年の遷御まで八年にわたり行われます。同展ではご遷宮を記念して、今年四月から始まりました山口祭、御杣始祭、御樋代木奉曳、御船代祭を振り返り、主に写真パネルを中心に、木曾・上松町の三ッ緒伐り保存会の全面的な協力を得て開催されます。伊勢文化舎も本展示の企画で参加をいたします。ぜひ、ご来場ください。

主な展示内容

◆展示パネル他 (大黒ホール)

- ・ご遷宮の諸祭と行事
- ・御杣始祭とご神木、そして伊勢へ
- ・木曾絵で繋がる木曾と伊勢
- ・写真で見るお木曳行事
- ・「伊勢講暦」で見る神宮の魅力

◆木曾を知る 12/6・7 (おかげ横丁内)

- ・木工体験コーナー (有料)
- ・木曾の獅子狂言・木遣りの披露 (6日のみ・太鼓櫓)
- ・木曾の名物・五平餅を味わう
- ・木曾の物産販売他

赤沢自然休養林

御樋代木の奉曳 (内宮)

御杣木祭 (上松町)

御杣始祭

山口祭 (内宮)

好評発売中！ 2026年「伊勢講暦」

<11月上旬発行>
テーマ「第63回 神宮式年遷宮が始まる」

「伊勢講暦」は神宮と旧神領(伊勢市)の一年がわかるカレンダーです。伊勢神宮では令和7年から令和のご遷宮がはじまりました。ご遷宮の諸祭、「山口祭」、「御杣始祭」(木曾)、「御樋代木の奉曳」(伊勢市)など臨場感ある撮り下ろし写真とその地が詠み込まれた和歌等を紹介しています。お伊勢さんを身近に感じられるカレンダーです。

1部 1,700 円(送料込み)・2部 2,400 円(送料込み)
7枚綴り(表紙+6枚)

三重県内の主な書店・Amazonでも購入できます
詳細はHPで <http://www.isebito.com/>
お問い合わせ 伊勢文化舎 ☎0596・23・5166

お伊勢さんの広報誌 瑞垣 を読んでみませんか

年に3回、神宮の折々の話題をお届けします

*ご希望の方に見本誌(最新号)をお送りしています

お手紙またはFAXに、住所・氏名・電話番号・『瑞垣』希望とご記入の上、神宮司庁広報室までお送り下さい

お問合せ▶ 神宮司庁 広報室
〒516-0023 伊勢市宇治館町1
TEL: 0596-24-1111
FAX: 0596-22-5503

伊勢志摩の
まつり暦

12月

1日(月) 御酒殿祭
みさかのさい
12月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。
伊勢市、伊勢神宮内宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

5日(金) 14日(日)

お伊勢さんのご遷宮展 (詳細は7面)
伊勢市、おかげ横丁

7日(日) 夫婦岩大注連縄張神事
めおといわおしめなわはりしんじ
夫婦岩に大注連縄を新たに張り渡す神事。木遣り唄が流れる中、お祓いを受けた大注連縄が氏子らによって夫婦岩に張り渡される。
伊勢市、二見興玉神社
二見興玉神社 Tel 0596・43・2020

15日(月) 25日(木) 月次祭
つきさい
6月と12月に、皇室と国民の栄えを祈って行われる大祭。三節祭のひとつ。
伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
伊勢市、伊勢神宮内宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

31日(水) 大祓
おとし
新年を迎えるにあたり、大宮司以下の神職・楽師を祓い清める儀式。
伊勢市、伊勢神宮内宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

1月

1日(木・祝) 歳旦祭
としごひまつり
新年を迎え、大御饗をお供えし、皇室の弥栄と五穀豊穡、国民の平安を祈る祭り。
伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
伊勢市、伊勢神宮内宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

2日(金) ひつぼろ神事
ひつぼろしんじ
立神・宇気比神社の獅子舞行事。一年の豊作を祈願する。
志摩市阿児町、宇気比神社
志摩市観光案内所 Tel 0599・46・0570

11日(日) 一月十一日御饗

内宮四丈殿において天照大御神、豊受大御神をはじめ、諸宮社に坐す神々に御饗を共進し、大御神と共に御饗を共にされる祭り。午後1時から五丈殿で歌舞「東遊」が奏される。
伊勢市、伊勢神宮内宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

11日(日) 盤の魚と弓引き神事
ばんのうしとゆみひきしんじ
盤の魚は、手を触れずに包丁と真名箸でボラをさばき豊漁を祈念する。引き続き弓引き神事が行われる。
志摩市浜島町、宇気比神社
宇気比神社 Tel 0599・53・0088

上旬 新春郷土芸能
しんしゅんきょうとげいぶ
新春にあふわしい縁起の良い郷土色豊かな伝統芸能を披露。
伊勢市、おかげ横丁
おかげ横丁総合案内
Tel 0596・23・8388

14日(水) 湯立神事
ゆだてしんじ
熱湯の入った大釜に「熊笹」を浸し、その湯を参列者の頭上から浴びることと身を清め、無病息災を祈願する。
伊勢市、栄野神社
二見興玉神社 Tel 0596・43・2020

20日(火) 初えびす
はつえびす
漁業関係者・崇敬者らが太漁満足、家内安全繁栄を祈願し、恵比寿像の周りで南を向いて3回「わっはっは」と初笑い。
志摩市浜島町、恵比寿神社
宇気比神社 Tel 0599・53・0088

2月

3日(火) 節分祭
せぶんまつり
神事のおと、撒豆台に現れた赤鬼・青鬼を追い出し、宮司、猿田彦大神役、年男男女らが舞台にあがり、福豆、紅白餅等を撒く。
伊勢市、二見興玉神社
二見興玉神社 Tel 0596・43・2020

6日(金) 御船祭
みふねまつり
境内には多くの大漁旗がはためき、漁業関係者が一年の海の安全と豊漁を祈願する。
鳥羽市、青峯山正福寺
青峯山正福寺 Tel 0599・55・0061



夫婦岩大注連縄張神事

14日(土) 高向の御頭神事
たかむけのみかぶし
800余年の伝統がある国重要無形民俗文化財。雌雄一対の獅子頭(御頭)を振り回す激しい舞が披露され、地区内を巡り、無病息災を願う。
伊勢市御園町、高向神社
伊勢市文化政策課 Tel 0596・22・7885

14日(土) 15日(日) 神祭・八幡祭
かみまつり・はつまつり
大漁満足と家内安全を祈願する弓引き神事。消炭とフノリで練った墨を塗った「おの」を担いで坂を駆け上がり、男衆が墨を奪い合う。
鳥羽市志志町、八幡神社
鳥羽市観光工課 Tel 0599・25・1157

17日(火) 23日(月・祝) 祈年祭
しねんまつり
一年の稲作の豊穡を祈る祭り。諸宮社では23日まで祭儀が行われる。
伊勢市、伊勢神宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

3月

1日(日) 観音火祭・初観音
くわんおんかまつり・はつくわんおん
願い事を護摩木に託し、柴燈護摩が焚かれる。その後、参詣者が火渡りを行う。
伊勢市二見町、太江寺
太江寺 Tel 0596・43・2283

9日(月) 初午大祭
はつなまつり
一年の厄災を祓い、運が開け、福が舞い込むように願い観音詣をする参拝者で賑わう。参道に屋台も並ぶ。
伊勢市、松尾観音
松尾観音 Tel 0596・22・2722

20日(金・祝) 春分の日 御園祭
はるのひのみくわんまつり
祭りに供える野菜・果物の豊かな稔りと農作業に携わる人々の安全を祈念し、農作物の育成と農業の発展を祈る。
伊勢市、神宮御園
伊勢神宮司庁 Tel 0596・24・1111

※データは11月1日現在。まつりや行事は主催者側の都合により、変更又は中止になる場合がある。

ミュージアム情報

斎宮歴史博物館

令和8年
1月31日(土) 3月8日(日)
冬季企画展「天地の神を祈りて―伊勢神宮、そして斎宮―」
斎宮を育んだ地域の歴史を、ゆかりの考古資料などからひもとく企画展。
伊勢市御園町、斎宮歴史博物館
伊勢市文化政策課 Tel 0596・22・3800

式年遷宮記念 神宮美術館

開催中 令和8年2月11日(火)
美術館収蔵品展
当代を代表する芸術家の方々から神宮に献納された美術工芸作品を公開する展示。
伊勢市神田久志本町、神宮美術館
伊勢市文化政策課 Tel 0596・22・1700

寶日館

開催中 令和8年1月12日(月・祝)
南部美智代作品展・冬の展示
古布を用いたミニ着物の新作と古布で作った「のうのう人形」の展示。
伊勢市、宝日館
宝日館 Tel 0596・24・1111



令和8年
1月4日(日) 1月12日(月・祝)
人日の節句展
春の七草の知識や節句のいわれを展示。
伊勢市二見町、伊勢神宮
伊勢神宮司庁 Tel 0596・43・2003

鳥羽市立 海の博物館

開催中 令和8年3月31日(火)
特別展「伊勢ふのりと日本」(仮称) 特別展示室
伊勢で製造加工されるふのりについて、歴史や加工法、糊としての利用の数々を実物資料を中心に展示紹介する。
鳥羽市浦村町、海の博物館
海の博物館 Tel 0599・32・6006

ご案内

好評発売中

令和8年版
「伊勢講暦」(カレンダー)
テーマ「第六十三回 神宮式年遷宮が始まる」



令和7年に斎行された山口祭、御杣始祭等を臨場感のある写真と短歌で紹介しています。

撮影/鈴木 昭宏 (写真家・伊勢市在住) ほか
発行/伊勢文化舎
定価/1部 660円 (税込) 送付の場合 1700円
販売/三重県内の主な書店、Amazon。詳しくはHPでお問合せ/ TEL 0596・23・5166
FAX 0596・23・5241
http://www/isebito.com

お便り

前号でインタビューしましたポトランドからの留学生、カタジナ・ロレンスさんから近況が届きました。ご紹介します。



ワルシャワ大学校内で

編集長雑感

内宮の御船代祭では、風日祈宮橋を渡った神域にこの日だけ許されて中へと入る。島路川沿いの祭場に奉仕員が到着すると空気が凛と引き締まり、祈りが捧げられた。大切な御用材がまた一つ調えられ、ご遷宮の動きを実感する。地元の川曳本番は来年七月だが浜参宮が三月にある。木遣り練習や梶子方の荷締め講習が行われ、10代20代が参加する姿にワクワクと気持ちが弾む。(元美)

次号は
令和8年7月下旬発行予定

スタッフ

発行人 中村賢一
編集長 中村元美
編集 堀口裕世 中川絵美子
出口伊都恵 福所淳子
撮影 鈴木和宏 (アンブレ)
高木恵奈 (アイブレーン)
印刷 大享印刷(株)

風に乗って、伊勢志摩へ

伊勢神宮

近鉄

伊勢志摩

近鉄線

近鉄名古屋

京都

伊勢市

宇治山田

鳥羽

賢島

しまかぜ

伊勢文化舎

伊勢文化舎が行く、観光特急「しまかぜ」スペシャルサイトはこちら